

# 日本における沈從文紹介・研究論文目録

齊藤大紀・小島久代作成

※行頭の・印は沈從文作品の翻訳および訳注を示す。☆印は単行本を示す。

月

一九二六年

・春霞「小説母親」『北京週報』第二〇三、二〇四号、極東新信社、一九二六年四月四、二一日

無署名「第三回懇話会」(懇話会案内、沈從文来朝の情報)『中国文学月報』第一卷第三号、一九三五年五月  
無署名「会報」(上記誤報の訂正)『中国文学月報』第一卷第四号、一九三五年六月

一九二七年

・柳湘雨「失明の父(戯曲)」『滿蒙』第八卷第一〇号、中日文化協会、一九二七年一〇月

・大高巖「若墨といふ医者」『同人』第九卷第六号、同人会、一九三五年六月

一九三五年

無署名「一、『老舍と沈從文』(支那的なる現代作家)岡崎俊夫氏」(例会記録)『中国文学月報』第一卷第三号、一九三五年五

一九三七年

岡崎俊夫「沈從文小論」『中国文学月報』第二卷第二二号、一九三五年六月

一九三八年

松枝茂夫「訳者あとがき」『辺城』（大陸文化叢書七）改造社、一九三八年一月（のち『辺城』訳者あとがき）として『中国文学のたのしみ』岩波書店、一九九八年一月に収録）

白水社、一九三九年二月  
・松枝茂夫「山道中」中国文学研究会編『蚕』（現代支那文学叢刊第二輯）、伊藤書店、一九三九年二月

一九四〇年

・梅村良之「生存——長栄に贈る——」『中国文学月報』第四卷第三六号、一九三八年三月

橋川時雄「沈從文」『中国文化界人物総鑑』中華法令編印館、一九四〇年一〇月

・古浜修一「会明」、「顧問官」『新支那作家集・夜哨線』第一書房、一九三八年一月

武田泰淳「沈從文」『記丁玲』続集（書評）『中国文学』第六六号、一九四〇年一月（のち『武田泰淳全集』第一一巻、筑摩書房、一九七一年一月に収録）

☆松枝茂夫「辺城」（大陸文化叢書七）、「辺城」、「夫」、「夫婦」、「会明」、「柏子」、「龍朱」、「月下小景」改造社、一九三八年一月

・猪俣庄八「昆明冬景」『文芸日本』第九号、文芸日本社、一九四〇年七月

一九三九年

梅村良之「作家論」『中国文学月報』第五卷第五〇号、一九三九年五月

一九四一年

柳澤三郎「虚妄の愉悅——松枝茂夫訳『辺城』を中心に——」『中国文学月報』第五卷第五一号、一九三九年六月

松枝茂夫「好きな作家・好きでない作家」『中国文学』第七七号（民国三十年記念特輯）、一九四一年一〇月（のち松枝茂夫『松枝茂夫文集』第二巻『中国現代文学・回想文篇』研文出版、一九九九年四月に収録）

☆土井彦一郎「牛」（訳注）『西湖の夜——白話文学二十講——』

一九九九年四月に収録）

## 日本における沈從文紹介・研究論文目録

齊藤大紀・小島久代作成

※行頭の・印は沈從文作品の翻訳および訳注を示す。☆印は単行本を示す。

月

無署名「第三回懇話会」（懇話会案内、沈從文来朝の情報）『中国文学月報』第一卷第三号、一九三五年五月

一九二六年

・春霞「小説母親」『北京週報』第二〇三、二〇四号、極東新信社、一九二六年四月四、一日

無署名「会報」（上記誤報の訂正）『中国文学月報』第一卷第四号、一九三五年六月

一九二七年

・柳湘雨「失明の父（戯曲）」『滿蒙』第八卷第一〇号、中日文化協会、一九二七年一〇月

・大高巖「若墨といふ医者」『同人』第九卷第六号、同人会、一九三五年六月

・竹内好「黄昏」『文芸』第三卷第一二号、改造社、一九三五年二月

一九三五年

無署名「一、『老舎と沈從文』（支那的な現代作家）岡崎俊夫氏」（例会記録）『中国文学月報』第一卷第三号、一九三五年五月

一九三七年

岡崎俊夫「沈從文小論」『中国文学月報』第二卷第二二号、一九三五年六月

一九三八年

松枝茂夫「訳者あとがき」『辺城』(大陸文化叢書七) 改造社、一九三八年一月(のち『辺城』訳者あとがき)として『中国文学のたのしみ』岩波書店、一九九八年一月に収録

白水社、一九三九年十二月

・松枝茂夫「山道中」中国文学研究会編『蚕』(現代支那文学叢刊第二輯)、伊藤書店、一九三九年十二月

一九四〇年

・梅村良之「生存——長栄に贈る——」『中国文学月報』第四卷第三六号、一九三八年三月

橋川時雄「沈從文」『中国文学界人物総鑑』中華法令編印館、一九四〇年一〇月

・古浜修「会明」、「顧問官」『新支那作家集・夜哨線』第一書房、一九三八年一月

武田泰淳「沈從文」『記丁玲』続集(書評)『中国文学』第六六号、一九四〇年一月(のち『武田泰淳全集』第一卷、筑摩書房、一九七一年一月に収録)

☆松枝茂夫『辺城』(大陸文化叢書七)、『辺城』、『夫』、『夫婦』、『会明』、『柏子』、『龍朱』、『月下小景』 改造社、一九三八年一月

・猪俣庄八「昆明冬景」『文芸日本』第九号、文芸日本社、一九四〇年七月

一九三九年

梅村良之「作家論」『中国文学月報』第五卷第五〇号、一九三九年五月

一九四一年

柳澤三郎「虚妄の愉悅——松枝茂夫訳『辺城』を中心に——」『中国文学月報』第五卷第五一号、一九三九年六月

松枝茂夫「好きな作家・好きでない作家」『中国文学』第七七号(民国三十年記念特輯)、一九四一年一〇月(のち松枝茂夫『松枝茂夫文集』第二卷「中国現代文学・回想文篇」研文出版、一九九九年四月に収録)

☆土井彦一郎「生」(訳注)『西湖の夜——白話文学二十講』

一九九九年四月に収録

☆武田泰淳・小田嶽夫『揚子江文学風土記』竜吟社、一九四一年

年二月（湖南省の部）、のち『武田泰淳全集』第一〇巻、

筑摩書房、一九七一年に収録

・松枝茂夫「ランブ」小田嶽夫編『現代支那文学傑作集』、春

陽堂書店、一九四一年七月

一九四二年

大島寛『湖南の兵士』解題『湖南の兵士』小学館、一九四二

年九月（のち『武田泰淳全集』第一〇巻、筑摩書房、一九七三

年に収録）

☆大島 寛『湖南の兵士』（湖南の兵士）、『女作家の生活』（

小学館、一九四二年九月

一九四三年

・金子二郎「ランブ」『支那語文化』第一、二巻、大阪宝文館、

一九四三年一〇、一一月

一九四五年

☆岡本隆三『沈從文短編集』（旅籠屋）、『結婚前』、『阿金』、

『七人の野人と最後の迎春節』開成館、一九四五年二月

一九四六年

岡本隆三『沈從文の『旅店』其他』『中国文学』第九六号、

一九四六年六月

・猪俣庄八「郭沫若論」『中国文学』第九六号、一九四六年六

月

一九四七年

飯塚 朗『沈從文と現実』『中華日報』、一九四七年三月（のち

『黄瑠璃の破片』啞啞之会、一九八一年一月に収録）

『座談会 東方文学における世界性と地方性』『中国文学』第

一〇〇号、一九四七年一〇月（参加者…小野忍、武田泰淳、岡

崎俊夫、飯塚朗、竹内好、千田九一、増田渉）

一九四八年

高山 巖『辺城の世界』『中国文学』第一〇三号、一九四八年

二月

一九四九年

岡崎俊夫「中国作家における浪漫的心情について——

『五四』三十周年を記念して——」『民主朝鮮』第四卷二七号、

一九四九年五月

近藤春雄「沈從文」『現代中国の作家と作品』新泉書房、

一九四九年十一月

一九五一年

岡崎俊夫「ディッケンズと老舎と沈從文」『中国語雑誌』第六

号、帝国書院、一九五一年六月

一九五二年

・Q「『背景』と沈從文——新中国の思想改造について」(文

化セクション)『亜東資料』第五一期、一九五二年九月

・無署名「政治と文学の分離から結合へ——私の学習——」

『人間革命 中国知識人の思想改造』、一九五二年三月

一九五四年

倉田淳之助「沈從文」『研究社世界文学辞典』研究社、

一九五四年九月

立間祥介「あとがき」『現代中国文学全集』第八卷「沈從文篇」

河出書房、一九五四年一〇月

榎山久雄「太古への郷愁」『現代中国文学全集月報』第九号、

河出書房、一九五四年一〇月

武田泰淳「人間の悲苦と歓喜——現代中国文学全集八沈從文

篇」『日本読書新聞』一九五四年二月二〇日(のち「現代中

国文学全集八沈從文篇」と改題し、『武田泰淳全集』第一〇巻、

筑摩書房、一九七三年に収録)

☆松枝茂夫・立間祥介・岡本隆三共訳『現代中国文学全集』第

八巻「沈從文篇」(「辺城」、「夫」、「夫婦」、「ランプ」、「会

明」、「柏子」、「龍朱」、「月下小景」、「旅篋屋」、「結婚前」、

「從文自伝」)河出書房、一九五四年一〇月

一九五五年

無署名「沈從文」『「辺城」中国文学研究会編「中国新文学事典」

河出書房、一九五五年十一月

一九五七年

尾坂徳司「中国新文学運動史」法政大学出版局、一九五七年

一一一

一九五九年

新島淳良「沈從文」中国研究所『現代中国事典』岩崎書店

一九五九年二月

丸山 昇「沈從文」『アジア歴史事典』第六卷、平凡社、

一九五九年二月

一九六二年

松枝茂夫「沈從文について」(解説)『中国現代文学選集』第六

卷「老舍・曹禺集」平凡社、一九六二年六月

☆松枝茂夫「夫」、「ランプ」『中国現代文学選集』第六卷「老

舍・曹禺集」平凡社、一九六二年六月

・今村与志雄「あなたは鹿のように」『中国現代文学選集』第

一九卷「詩・民謡集」平凡社、一九六二年六月

一九六五年

尾坂徳司「統・中国新文学運動史」法政大学出版局、一九六五

年三月

一九六六年

立間祥介「沈從文」『新潮世界文学小辞典』新潮社、一九六六  
年五月

一九七〇年

松枝茂夫「沈從文について」(解説)『現代中国文学』第五卷

「丁玲・沈從文」河出書房新社、一九七〇年八月

山室 静「辺城」小惑「現代中国文学」第五卷「丁玲・沈從

文」河出書房新社、一九七〇年八月

☆松枝茂夫「辺城」、「夫」、「夫婦」、「ランプ」、「会明」『現代

中国文学』第五卷「丁玲・沈從文」河出書房新社、一九七〇

年八月

一九七一年

・岩佐氏健「昆明冬景」『中国現代文学』第二二卷「評論・散

文」河出書房新社、一九七一年一〇月

一九七二年

松枝茂夫「沈從文」『世界大百科事典』第二〇卷、平凡社、

一九七二年四月初版

一九八二年一月

一九七三年

一九八三年

小島久代「沈從文」『万有百科大事典』第一卷「文学」小学館

城谷武男「非政治性の来源と意味——沈從文と湘西」『野草』

一九七三年八月

第三二号、中国文芸研究会、一九八三年一二月

辛島 驍「中国現代文学の研究」汲古書院、一九八三年一〇月

一九七四年

内田道夫「新と旧——中国現代文学への道程——」『人文学部

一九八四年

人文学報』東京都立大学、第九八号、一九七四年三月

小島久代「中国に於ける最近の沈從文研究の動向」『お茶の水

西脇隆夫「漢民族における少数民族像——ミャオ族を例とし

女子大学中国文学会報』第三号、一九八四年四月

て」『人文学報』東京都立大学、第九八号、一九七四年三月

井口 晃「沈從文文学作品の議論あいつぐ」『東方』第三八号、

宮原哲雄「沈從文雑感」『啞』第三号、啞啞之会、一九七四

東方書店、一九八四年五月

年

城谷武男「鳳凰県の世界：沈從文の故郷」『野草』第三四号、

中国文芸研究会、一九八四年八月

一九七七年

小島久代「辺城」試論——沈從文文学に於ける愛と美」『都留

・福家道信「丁玲のい」『VIKING』第三一九〜三三三九号、

文科大学研究紀要』第二一集、一九八四年一一月

VIKING CLUB、一九七七年七月〜一九七九年三月

一九八五年

一九八二年

城谷武男「湘西を旅する——山と川と民族と」『日中経済協会

岡本隆三「沈從文氏のことども」『東方』第二四号、東方書店、

会報』第一三七号、一九八五年一月

尾崎文昭『「反差不多論争」(一九三七年)に見る沈從文と南北文壇の位置関係』『東洋文化』第六五号、東京大学東洋文化研究所、一九八五年三月

小島久代「沈從文文学に於ける『常』と『變』——『辺城』と『長河』をめぐる」『東洋文化』第六五号、東京大学東洋文化研究所、一九八五年三月

城谷武男『「辺城」の舞台——茶洞——』『東方』第五〇号、東方書店、一九八五年五月(のち『中国 わたしのばあい』サッポロ堂書店、二〇〇三年に収録)

小島久代「沈從文」丸山昇・伊藤虎丸・新村徹編『中国現代文学事典』東京堂出版、一九八五年九月

城谷武男『「辺城」主題考』『北海学園大学学園論集』第五二号、一九八五年二月

一九八六年

小島久代「湘西旅行記」『誌上同窓会』第六号、一九八六年六月

小島久代「沈從文」『日本大百科全書』小学館、一九八六年一月

一九八八年

小島久代「胡也頻・丁玲・沈從文の上海における軌跡探訪」『お茶の水女子大学中国文学報』第七号、一九八八年四月

城谷武男「事実と解釈のはざまに——凌宇著『從辺城到世界』を読む」『北海学園大学学園論集』第六〇号、一九八八年五月

城谷武男『「辺城」そして沈從文——その訃報に接して』『北海道新聞』夕刊、一九八八年六月二五日(のち『中国 わたしのばあい』サッポロ堂書店、二〇〇三年に収録)

松枝茂夫「沈從文先生と私」『節令』第八期、早稲田大学文学部、一九八八年九月(のち『中国文学のたのしみ』岩波書店、一九九八年一月に収録)

稲畑耕一郎「沈從文先生訪問記」『沈從文先生と私』『節令』第八期、早稲田大学文学部、一九八八年九月

稲畑耕一郎『「沈湘之間」における巫俗について』『中国文学研究』第一四号、早稲田大学文学部、一九八八年二月

一九八九年

小島久代「沈從文の初期作品(一九二四〜二七)紹介」『明海大学外国語学部論集』第一号、一九八九年三月

河田悌一「沈從文」(潮音風音)『読売新聞』夕刊、一九八九年

五月五日

北霖太郎「沈從文先生の文学と生涯」『東亜』第二六七号、一九八九年九月

城谷武男「蕭蕭」における版本比較ならびに評釈」『北海学園大学学園論集』第六三号、一九八九年七月

福家道信「沈從文の『辺城』について」『近畿大学教養部研究紀要』第二一巻二号、一九八九年十二月

一九九〇年

城谷武男「『阿金』諸版本における相違およびその意味」『北海学園大学学園論集』第六六号、一九九〇年三月

小島久代「月下小景」考」『お茶の水女子大学中国文学会報』第九号、一九九〇年四月

寺村政男・西槇光正「蕭蕭」中国語中級講読テキスト」白帝社、一九九〇年四月

辺土名朝邦「沈從文の『蕭蕭』について」樋口進先生古稀記念中国現代文学論集」中国書店、一九九〇年四月

福家道信「沈從文の短編小説（上）」『近畿大学教養部研究紀要』第二二巻二号、一九九〇年十二月

城谷武男「『牛』諸版本における相違およびその意味」『北

海学園大学学園論集』第六七、六八号、一九九〇年十二月、一九九一年三月

一九九一年

藤井省三「中国文学の百年」新潮選書、新潮社、一九九一年二月

李輝（名和又介訳）「沈從文の『記丁玲女士』」『野草』第四七号、中国文芸研究会、一九九一年二月

小島久代「月下小景」考その二——『扇陀』の人物形象とテーマについて」『竹田晃先生退官記念東アジア文化論叢』汲古書院、一九九一年六月

城谷武男「沈從文『阿金』についての試論——異本間における文学的相違とその方法としての版本比較——」『北海学園大学学園論集』第六九号、一九九一年七月

城谷武男「『辺城』校異考（一）」（二）」『北海学園大学学園論集』第六九号、七四、七六、八七、九〇、九三、九五号、一九九一年七月、一九九八年三月

今泉秀人「『郷下人』とは何か——沈從文と民族意識」『野草』第四八号、中国文芸研究会、一九九一年八月

阿頼耶順宏「沈從文——評価を歴史に委ねた作家」『東洋文化

学科年報』第六号、追手門学院大学、一九九一年 一月  
福家道信「沈從文の短編小説（中之上）」『近畿大学教養部研究紀要』第三卷一二号、一九九一年二月

## 一九九二年

黄 媛玲「沈從文の最初期創作に関する一考察」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第五号、一九九二年一月

今泉秀人「『辺城』・伝達の物語——沈從文と民族意識——」

『関西大学・中国文学会紀要』第一三三号、一九九二年三月

小島久代「魯迅と沈從文——『文学者の態度』から『七論

『文人相軽』——両傷』まで」『魯迅と同時代人』汲古書院

一九九二年六月

小島久代「月下小景」考——「女人」・「被刑罰的愛」人物形

象とテーマについて」『文化言語学——その提言と建設』三省

堂出版、一九九二年一月

山本明「『新散文』の形成——沈從文の文体」『中国文学研究』

第一八期、早稲田大学文学部、一九九二年二月

・今泉秀人「怯歩者筆記——鶏の声」『火鍋子』第二号、『火鍋子』刊行委員会、一九九二年四月

・今泉秀人「田舎の夏（鎮筆土話）」『火鍋子』第四号、『火鍋子』刊行委員会、一九九二年八月

・城谷武男「貴州小景」『中国語』第三九五～三九八号、内山書店、一九九二年二月～一九九三年三月

・長堀祐造「自殺の話」藤井省三編『中国ユーモア文学傑作選・笑いの共和国』白水社、一九九二年六月

## 一九九三年

黄 媛玲「一九二五年春北京の沈從文・胡也頻と魯迅」『未名』

第一一五号、神戸大学、一九九三年三月

小島久代「浮沈に耐えたロマンティスト」『中国語』第四〇一

号、内山書店、一九九三年六月

福家道信「沈從文の短編小説『蕭蕭』について」『近畿大学教

養部研究紀要』第二五卷二号、一九九三年七月

土屋美津江「沈從文と政治——『七人の野人』と最後の迎春節」

に即して」『信大史学』第一八号、一九九三年十一月

・今泉秀人「市場」『火鍋子』第六号、『火鍋子』刊行委員会、一九九三年一月

・傳田章「牛」（訳注）『中国語Ⅳ』放送大学教育振興会、

一九九三年三月

一九九四年

小島久代『「尋覓」試論』『野草』第五三三号(沈從文特集)、中国文芸研究会、一九九四年二月

城谷武男『沈從文・中上健次対比研究試論——援用・対比編』

『野草』第五三三号(沈從文特集)、中国文芸研究会、一九九四年二月

孫歌(西野由希子訳)『沈從文の『美育重造政治』説』『野草』

第五三三号(沈從文特集)、中国文芸研究会、一九九四年二月

土屋美津江『「記胡也頻」』『「記丁玲」再説』『野草』第五三三号

(沈從文特集)、中国文芸研究会、一九九四年二月

福家道信『小説から映画へ』『野草』第五三三号(沈從文特集)、

中国文芸研究会、一九九四年二月

彭小研(中澤智恵訳)『声なき恋——沈從文の『神巫之愛』』

『野草』第五三三号(沈從文特集)、中国文芸研究会、一九九四年

二月

孫歌(西野由希子訳)『「抽象」試論——沈從文の四十年代の論説文を読む』阿部幸夫編『中国現代文学をよむ——四十年代の

検証』東方書店、一九九四年二月

城谷武男『沈從文・中上健次対比研究試論——本質推論編——』

『北海学園大学学術論集』第七九号、一九九四年三月

城谷武男『沈從文全集』への期待と危惧——沈從文諸版本

の状況と編集方針への要望』『東方』第二五八号、東方書店、

一九九四年五月(のち『中国 わたしのばあい』サッポロ堂書

店、二〇〇三年に収録)

今泉秀人『われわれは、沈從文を今日的作家としてとらえて得るか——城谷武男『沈從文・中上健次対比研究試論』を読む』

『野草』第五四号、中国文芸研究会、一九九四年八月

好並品『原作と映画の関係性——福家論文考察』『野草』第五四

号、中国文芸研究会、一九九四年八月

松浦恆雄『彭小研『声なき恋』——沈從文の『神巫之愛』』『野

草』第五四号、中国文芸研究会、一九九四年八月

・城谷武男『雨上がり』『火鍋子』第一三三号、『火鍋子』刊行委

員会、一九九四年四月

・城谷武男『蕭蕭』『饕餮』第二号、中国文学会(北海道大

学)、一九九四年八月

一九九五年

斎藤敏康『沈從文』『図説中国二〇世紀文学 解説と資料』白

帝社、一九九五年三月

土屋美津江『沈從文におけるエスニシティとナショナリズム』

『お茶の水女子大学中国文学会報』第一四号、一九九五年四月

吉田富夫『雑誌『紅黒』『中国文学報』第五〇冊、京都大学中

国語中国文学研究室中国文学会、一九九五年四月

今泉秀人『雨後』を読む——沈從文とフォークローア——『季

刊中国』第四二号、季刊中国刊行委員会、一九九五年九月

齊藤大紀『『辺城』論——沈從文の空間意識——』『饗養』第三号、

中国人文学会（北海道大学）、一九九五年九月

城谷武男・今泉秀人『未定稿・沈從文著作日本国内所在目録』

『北海学園大学園論集』第八五号、一九九五年九月

辻田正雄『沈從文』山田辰雄編『近代中国人名辞典』財団法人

霞山会、一九九五年九月

福家道信『北京文学散歩一』『中国文芸研究会会報』第一六七

号、一九九五年九月三〇日

福家道信・小島久代『北京文学散歩二』『中国文芸研究会会報』

第一七〇号、一九九五年二月三十一日

☆古田真一・栗城延江『中国古代の服飾研究』京都書院、

一九九五年五月

・城谷武男『生』『饗養』第三号、中国人文学会（北海道大学）、

一九九五年九月

一九九六年

黄 媛玲『沈從文の初期創作に見られる思想——一九二四年

から一九二六年（一）』『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第

一三三号、一九九六年一月

福家道信『北京文学散歩三』『中国文芸研究会会報』第一七一

号、一九九六年一月三〇日

小島久代『『ふしぎの国のアリス』のパロディとしての『阿

麗思中国遊記』『明海大学外国語学部論集』第八集、一九九六

年三月

福家道信『北京文学散歩四』『中国文芸研究会会報』第一七三

号、一九九六年三月三十一日

吉田富夫『中国現代文学史』朋友書店、一九九六年四月

福家道信『湘西の旅五』『中国文芸研究会会報』第一七五号、

一九九六年五月三十一日

齊藤大紀『『還郷』論——沈從文の壺中天』『火輪』創刊号、

『火輪』発行の会（北海道大学）、一九九六年六月

城谷武男「仮説『阿黒小史』論——沈従文における中編小説の成立とそのテーマ——」『北海学園大学学術論集』第八八号、一九九六年六月

黄 媛玲「沈従文の初期創作に見られる思想——一九二四年から一九二六年（二）——」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第一四号、一九九六年七月

福家道信「湘西の旅六」『中国文芸研究会会報』第一八〇号、一九九六年一〇月二七日

一九九七年

小島久代「沈従文」『集英社世界文学大事典』集英社、一九九七年一月

福家道信「湘西の旅七」『中国文芸研究会会報』第一八三号、一九九七年一月三十一日

黄 媛玲「沈従文の初期創作に見られる思想——一九二四年から一九二六年（三）——」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第一五号、一九九七年二月

小島久代「沈従文評論の変遷 その一」『明海大学外国語学部論集』第九集、一九九七年三月

福家道信「沈従文の短編小説（中之中）」『近畿大学教養部研究紀要』第二八卷三号、一九九七年三月

今泉秀人「沈従文著古田真一・栗城延江共訳『中国古代の服飾研究』（中国語・中国文学わたしのすすめる本）『日中友好新聞』、一九九七年四月五日

中野知洋「沈従文の軍隊小説について」『集刊東洋学』第七七号、中国文史哲研究会（東北大学）、一九九七年五月

藤井省三・大木康「新しい中国文学史…近世から現代まで」ミネルヴァ書房、一九九七年七月

齊藤大紀「遙かな夜の路面電車——一九二四年、北京での電車開通と知識人」『鷺鷥』第五号、中国人文学会（北海道大学）、一九九七年九月

☆小島久代「沈従文——人と作品」汲古書院、一九九七年六月

・齊藤大紀「夜回りの阿韓」（訳注）『火輪』第三号、『火輪』発行の会（北海道大学）、一九九七年九月

一九九八年

福家道信「再訪鳳凰県」『中国文芸研究会会報』第一九五号、一九九八年一月三十一日

松枝茂夫『中国文学のたのしみ』岩波書店、一九九八年一月

齊藤大紀「究竟哪一篇是沈從文之作」『火輪』第四号、『火輪』

発行の会（北海道大学）、一九九八年三月

増田 浩「言外の言」『丈夫』夫 藍天文芸出版社、一九九八年三月

間ふさ子「映画化された沈從文作品——『辺城』と『蕭蕭』

『丈夫』夫 藍天文芸出版社、一九九八年三月

横地 剛「一九六七年夏からの断想」『丈夫』夫 藍天文芸出版社、一九九八年三月

福本勝清「中国革命を駆け抜けたアウトローたち 土匪と流氓

の世界」中公新書一四〇九、一九九八年三月

城谷武男「小島久代著『沈從文——人と作品』を読む」『野草』

第六二号、中国文芸研究会、一九九八年八月

小島久代「『沈從文——人と作品』正誤表」『野草』第六二号、

中国文芸研究会、一九九八年八月

杜曉東編「沈從文中文研究資料目録（一九八〇～一九九七）」

『野草』第六二号、中国文芸研究会、一九九八年八月

齊藤大紀「じよしまのささやき——徐志摩と沈從文（湘西小

説）——」『火輪』第五号、『火輪』発行の会（北海道大学）、

一九九八年九月

中野知洋「沈從文小説における時間描写の側面——とくに

その北京滞在期の作品について——」『集刊東洋学』第八〇号、

中国文史哲研究会（東北大学）、一九九八年二月

城谷武男「性鬼——補説『阿黑小史』論——」『北海学園大

学学園論集』第九八号、一九九八年二月

☆現代中国語講座「孩子王」クラス『丈夫』夫（辰溪の

石炭）『夫』吉首大学における講話 藍天文芸出版社、

一九九八年三月

・福家道信「沈從文・張兆和『湘行書簡』第一回『火鍋子』

第四二号、『火鍋子』刊行委員会、一九九八年三月

・福家道信「沈從文・張兆和『湘行書簡』第二回『火鍋子』

第四三号、『火鍋子』刊行委員会、一九九八年五月

・小島久代「巧秀和冬生」（現代文学名作対訳）『中国語』八月

号、一九九八年八月

一九九九年

小島久代「一九四〇年代における沈從文——四〇年代の評論を

読む」小谷一郎・佐治俊彦・丸山昇編『転形期における中国知

識人』汲古書院、一九九九年一月

上田なおみ「『九八国際沈従文学術討論会』の報告」『中国文学研究会会報』第二〇七号、一九九九年一月三十一日

福家道信「湘西の旅・一九九八（上）」『中国文学研究会会報』第二〇八号、一九九九年二月二十八日

齊藤大紀「胡也頻、湖南に行く——一九二五年六月の沈従文と胡也頻——」『火輪』第六号、『火輪』発行の会（北海道大学）、一九九九年三月

中野知洋「九八国際沈従文学術討論会に参加して」『東方』第二一八号、東方書店、一九九九年四月

松枝茂夫「松枝茂夫文集」第二巻「中国現代文学・回想文篇」研文出版、一九九九年四月

中 裕史「沈従文」『岩波現代中国事典』岩波書店、一九九九年五月

齊藤大紀「沈従文『田舎の夏』」『翼』第七号、中国文学会（北海道大学）、一九九九年九月

城谷武男「田時烈氏の死を悼む」『湘西』創刊号、『湘西』刊行会、白帝社、一九九九年一〇月

沈虎雄（福家道信訳）「作品についての沈従文の談論を思い出すまに」『湘西』創刊号、『湘西』刊行会、白帝社、一九九九年一〇月

・小島久代「巧秀と冬生」『湘西』創刊号、『湘西』刊行会、白

田時烈（福家道信訳）『鳳凰県、苗族の風情あふれるばかりに』

『湘西』創刊号、『湘西』刊行会、白帝社、一九九九年一〇月

田時烈（福家道信訳）『風動岩——鳳凰県見聞一瞥』『湘西』創刊号、『湘西』刊行会、白帝社、一九九九年一〇月

田時烈整理（福家道信訳）「幼い頃の沈従文先生の逸話」『湘西』創刊号、『湘西』刊行会、白帝社、一九九九年一〇月

中野 徹「鳳凰県城探検記」『湘西』創刊号、『湘西』刊行会、白帝社、一九九九年一〇月

土屋美津江「沈従文の『辺城』における恋愛」『湘西』創刊号、『湘西』刊行会、白帝社、一九九九年一〇月

城谷武男「『油坊』を知る」『湘西』創刊号、『湘西』刊行会、白帝社、一九九九年一〇月

齊藤大紀「鳴け、北京のニワトリ——五・三〇運動、活字メディアと沈従文」『湘西』創刊号、『湘西』刊行会、白帝社、一九九九年一〇月

齊藤大紀「民国北京、若き詩人の肖像——劉夢葦と沈従文——」『火輪』第七号、『火輪』発行の会（北海道大学）、一九九九年一二月

・小島久代「巧秀と冬生」『湘西』創刊号、『湘西』刊行会、白

帝社、一九九九年一〇月

・城谷武男「朝——塹壕一つ兵一人——」『火鍋子』第四一号、

『火鍋子』刊行委員会、一九九九年一月

・城谷武男「中国創作小説論」『北海学園大学学術論集』九九

号、一九九九年三月

## 二〇〇〇年

中村みどり「沈從文論——物語りと帰属の選択」『人文学報』

第三一一号、東京都立大学人文学部、二〇〇〇年三月

中野知洋「上海時期に至る沈從文の小説について——「自殺」

の主題と描写をめぐって」『集刊東洋学』第八三号、中国文史

哲研究会（東北大学）、二〇〇〇年五月

飯塚 容「沈從文作『辺城』（シリーズ名作案内四）『中国語』

第四八七号、内山書店、二〇〇〇年八月

齊藤大紀「黒塗りの部屋の詩人たち——聞一多『死水』と沈從

文『還願』——『火輪』第八号、『火輪』発行の会（北海道大

学）、二〇〇〇年九月

・陳 華菱「在沈從文墓前」『湘西』第二号、『湘西』刊行会、白

帝社、二〇〇〇年一〇月

黄 媛玲「沈從文初期郷土文学作品における題材の選択及び

描写方法——魯迅との比較によるアプローチ」『湘西』第二号、

『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇〇年一〇月

・吉野尚政「月下小景」について——仏教説話改作から見える

こと」『湘西』第二号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇〇年

一〇月

・劉壯翀・劉壯韜「沈從文作品中湘西方言釈義」『湘西』第二号、

『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇〇年一〇月

中野知洋「沈從文小説における「自殺」について——「知己

朋友」をめぐって」『湘西』第二号、『湘西』刊行会、白帝社、

二〇〇〇年一〇月

中野知洋「冬の空間」論——岳明をめぐって」『東北大学中国

語学文学論集』第五号、二〇〇〇年一一月

・小島久代「夫」『中国現代文学珠玉選』小説一、二玄社、

二〇〇〇年三月

・福家道信「沈從文・張兆和『湘行書簡』第三回『火鍋子』

第四八号、『火鍋子』刊行委員会、二〇〇〇年四月

・小島久代「赤い悪夢・雪晴」『湘西』第二号、『湘西』刊行

会、白帝社、二〇〇〇年一〇月

二〇〇一年

丸山 昇『文化大革命に到る道』岩波書店、二〇〇一年一月

武田雅哉・林久之『中国科学幻想文学館』(上) あじあブック

ス三五、大修館書店、二〇〇一年二月

齊藤大紀『名前に二本足のある娘たち』(上、下)『東方』第

二四二、二四三号、東方書店、二〇〇一年三月、四月

城谷武男・今泉秀人『沈從文「雨後」を読む——中国現代文学

への誘い』同出版社、二〇〇一年四月

上田なおみ『日本における沈從文研究状況』『一海・太田尚教

授退休記念中国学論集』朋友書店、二〇〇一年四月

佐原陽子『沈從文の断筆に関する一考察』『神戸市外国語大学

研究科論集』第四号、二〇〇一年四月

黄 媛玲『沈從文の初期創作に見られる思想——一九二四年

〜一九二六年(五)』『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第

二二号、二〇〇一年八月

齊藤大紀『幽霊の話を怖がらない物語』月刊『しにか』

二〇〇一年八月号、大修館書店、二〇〇一年八月

田時烈(福家道信訳)『沈從文先生、最後の帰郷の日々』『湘

西』第三号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇一年一〇月

福家道信『初めて鳳凰県を訪れた頃——田時烈氏のこと』『湘

西』第三号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇一年一〇月

向 成国『沈從文作品背後の小故事』(吉首大学特集)『湘西』

第三号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇一年一〇月

葉 德政『沈從文与湘西三王廟』(吉首大学特集)『湘西』第三

号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇一年一〇月

李 啓群『浅談沈從文作品中方言俗語表達效果』(吉首大学特

集)『湘西』第三号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇一年一〇

月

李 端生『沈從文与文物收藏』(吉首大学特集)『湘西』第三

号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇一年一〇月

向 成国(文)・張勤(写真)『火龍閣元宵』(吉首大学特集)

『湘西』第三号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇一年一〇月

糜華菱・糜允孝『沈從文作品中的沅陵(辰州)地名図説』『湘

西』第三号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇一年一〇月

糜 華菱『別開生面的「湘行集」』『湘西』第三号、『湘西』刊

行会、白帝社、二〇〇一年一〇月

中野 徹『八駿図』考——沈從文における、ある物語の成立

——『湘西』第三号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇一年

一〇月

中野知洋『吳淞における沈從文』『日本中国学会報』第五三集、

二〇〇一年一〇月

中野知洋「兵士と婦人——武漢時期の沈從文小説」『集刊東洋学』第八六号、中国文史哲研究会（東北大学）、二〇〇一年一二月

・福家道信「沈從文・張兆和『湘行書簡』」第四回『火鍋子』

第五一號、『火鍋子』刊行委員会、二〇〇一年一月

・齊藤大紀「愚直の人」（一）、（二）（訳注）『火輪』第九号、

第一〇号、『火輪』発行の会（北海道大学）、二〇〇一年三月、二〇〇一年九月

・福家道信「沈從文・張兆和『湘行書簡』」第五回『火鍋子』第四八号、『火鍋子』刊行委員会、二〇〇一年九月

・小島久代「事実は小説より奇なり」『湘西』第三号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇一年一〇月

二〇〇二年

小島久代「沈從文の自殺未遂事件及び両『家書』の異同について」『明海大学外国語学部論集』第一四集、二〇〇二年三月

齊藤大紀「さまよう自寛君——沈從文「愚直の人」論」『火輪』第一一號、『火輪』発行の会（北海道大学）、二〇〇二年三月

佐原陽子「辺城」における河の働き」『神戸市外国語大学研究科論集』第五号、二〇〇二年四月

藤井省三「花辺文学」『魯迅事典』三省堂、二〇〇二年四月

小島久代「沈從文」『集英社世界文学事典』集英社、二〇〇二年六月

丸山 昇「沈從文と私」（特集「私の中の沈從文」）『湘西』第四号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇二年一〇月

飯倉照平「最初に出会った小説」（特集「私の中の沈從文」）『湘西』第四号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇二年一〇月

蘇 冰「自然的幾種顔色——沈從文作品閱讀隨感一則」（特集「私の中の沈從文」）『湘西』第四号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇二年一〇月

糜 華菱「沈從文筆下の湘西是什麼樣子——説「沈從文和他的湘西」」『湘西』第四号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇二年一〇月

陳石子・田光孚「詩人田名瑜」『湘西』第四号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇二年一〇月

吳 立昌「一場並嚴格的派別之爭——沈從文挑起的『京海』之爭評析」『湘西』第四号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇二年一〇月

華菱・允孝『沅陵地名補説』『湘西』第四号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇二年一〇月

福家道信『湘行書簡』の旅』『湘西』第四号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇二年一〇月

・齊藤大紀『張家のぼん』『火輪』第二号、『火輪』発行の会（北海道大学）、二〇〇二年九月

・齊藤大紀『草人謡曲』前文（訳注）『湘西』第四号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇二年一〇月

・城谷武男『草人謡曲』謡曲選録（訳注）『湘西』第四号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇二年一〇月

二〇〇三年

小島久代『青色麗』考、『明海大学外国語学部論集』第一五集、二〇〇三年三月

福家道信『沈從文と湘西』『野草』第七号、中国文芸研究会、二〇〇三年二月

城谷武男『中国——わたしのばあい』サッポロ堂書店、二〇〇三年六月

宇野木洋『コンパクト・中国二〇世紀文学史』宇野木洋・松

浦恒雄編『中国二〇世紀文学を学ぶ人のために』世界思想社、二〇〇三年六月

今泉秀人『書く』ことの意味——二〇世紀後半の中国小説『宇野木洋・松浦恒雄編』中国二〇世紀文学を学ぶ人のために』世界思想社、二〇〇三年六月

世界思想社、二〇〇三年六月

銭理群・吳曉東（趙京華・桑島由美子・葛谷登訳）『新世紀の中国文学——モダンからポストモダンへ』白帝社、二〇〇三年七月

今泉秀人『福家道信』沈從文と湘西』『野草』第七号、中国文芸研究会、二〇〇三年八月

今泉秀人『汪曾祺の『職業』について』（中国文学あれこれ）

六四』『季刊中国』第七四号、季刊中国刊行委員会、二〇〇三年秋季

福家道信『張兆和さんを偲ぶ』（張兆和氏追悼特集）『湘西』第五号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇三年一〇月

沈紅（齊藤大紀訳）『おばあちゃんの花園』（張兆和氏追悼特集）『湘西』第五号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇三年一〇月

安 国鵬『尋訪石碑の遺憶』『湘西』第五号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇三年一〇月

摩 永校「沅陵——沈從文的第二故鄉」『湘西』第五号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇三年一〇月

摩 永校「深秋訪辺城」『湘西』第五号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇三年一〇月

齊藤大紀「鳳凰県の鶴飼い」『モーリー』第九号、北海道新聞野生生物基金、二〇〇三年一二月

佐原陽子「当代湖南行『辺城』の幻をたずねて」『颯風』第三七号、颯風の会、二〇〇三年一二月

・齊藤大紀「新と旧」『火輪』第二三号、『火輪』発行の会（北海道大学）、二〇〇三年三月

・福家道信「沈從文・張兆和『湘行書簡』」第六回『火鍋子』第五九号、『火鍋子』刊行委員会、二〇〇三年七月

・中里見敬・二〇〇二年度後期「アジア言語文化論Ⅱ」Ⅳ「受講生「三人の男と一人の女」『湘西』第五号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇三年一〇月

・小島久代「カワウソ皮の帽子をかぶった友人」『湘西』第五号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇三年一〇月

・小島久代「桃源と沅州」『湘西』第五号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇三年一〇月

・小島久代「鴨窠園の夜」『湘西』第五号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇三年一〇月

・城谷武男「闇夜」『湘西』第五号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇三年一〇月

・福家道信「沈從文・張兆和『湘行書簡』」第七回『火鍋子』第六〇号、『火鍋子』刊行委員会、二〇〇三年一二月

二〇〇四年

坂口直樹「中国現代文学の系譜——革命と通俗をめぐって——」東方書店、二〇〇四年二月

中野知洋「南京・杭州をめぐる沈從文の軌跡——『小説月刊』と『西湖文苑』——」『野草』第七三号、二〇〇四年二月

土屋美津江「沈從文作品における軍人——『会明』から『辺城』へ——」『お茶の水女子大学中国文学会報』第二三三号、二〇〇四年四月

福家道信「『辺城』の少女と老人」『近畿大学語学教育紀要』第四卷第一号二〇〇四年六月

城谷武男「いま、なぜ沈從文か」『翻訳集 瞥見 沈從文』サッポロ堂書店、二〇〇四年七月

城谷武男「沈從文の生涯」『翻訳集 瞥見 沈從文』サッポロ堂書店、二〇〇四年七月

堂書店、二〇〇四年七月

城谷武男「作品解説」『翻訳集 瞥見 沈從文』サッポロ堂書店、二〇〇四年七月

福家道信「中野知洋『南京・杭州をめぐる沈從文の軌跡—

小説月刊』と『西湖文苑』—」(書評)『野草』第七四号、

二〇〇四年七月

福家道信「沈從文の故郷—鳳凰県雷燒坡—」(中国文学あれこれ

六六回)『季刊中国』、二〇〇四年夏季

福家道信「鳳凰県と沈從文研究」『湘西』第六号、『湘西』刊行

会、白帝社、二〇〇四年一〇月

齊藤大紀「黄苗子・郁風夫妻座談会」『湘西』『湘西』刊行会、

白帝社、第六号、二〇〇四年一〇月

廖華菱「胡適何時識沈從文」『湘西』第六号、『湘西』刊行会、

白帝社、二〇〇四年一〇月

廖永校「虎雛夫婦到沅陵」『湘西』第六号、『湘西』刊行会、白

帝社、二〇〇四年一〇月

☆城谷武男著『翻訳集 瞥見 沈從文』(「雨上がり」、「朝 塹

壕 一つ兵一人」、「生」、「蕭蕭」、「パイプ」、「闇夜」、「貴州小

景」、「十年後」、「算人謡曲」謡曲選録、「中国創作小説論」、

白帝社、二〇〇五年一〇月

城谷武男「二辺城」校勘記『湘西』第七号、『湘西』刊行会、

白帝社、二〇〇五年一〇月

安国鵬「咸寧雙溪行—『五七』幹校訪沈老—」『湘西』第七号、

〔附録〕齊藤大紀訳注『算人謡曲』前文)サッポロ堂書店、

二〇〇四年七月

・福家道信「沈從文・張兆和『湘行書簡』第八回『火鍋子』

第六一号、二〇〇四年三月

・福家道信「沈從文・張兆和『湘行書簡』第九回『火鍋子』

第六二号、二〇〇四年七月

・小島久代「一九三四年一月十八日」、「多情な水夫と多情な

女」、「辰河の小船の水夫」(翻訳)『湘西』第六号、『湘西』

刊行会、白帝社、二〇〇四年一〇月

二〇〇五年

小島久代「日本における沈從文研究(一九二六年—一九八六

年)』『明海大学外国語学部論集』第一七集、二〇〇五年三月

小島久代「中国近期的沈從文研究」『明海大学応用言語学研究

科紀要』第七号、二〇〇五年三月

中野知洋「上海事変と沈從文の戦争小説—『懦夫』をめぐる

—」『学大國文』(大阪教育大学)第四八号二〇〇五年三月

城谷武男「二辺城」校勘記『湘西』第七号、『湘西』刊行会、

白帝社、二〇〇五年一〇月

安国鵬「咸寧雙溪行—『五七』幹校訪沈老—」『湘西』第七号、

白帝社、二〇〇五年一〇月

『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇五年一〇月

齊藤大紀「北京の文芸刊行物及び作者」(上)(訳注)『湘西』第七号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇五年一〇月

☆城谷武男著『沈從文「辺城」の校勘』サッポロ堂書店、二〇〇五年二月二五日

二〇〇五年二月二五日

・福家道信「沈從文・張兆和『湘行書簡』」第一〇回『火鍋子』第六四号、二〇〇五年四月

・福家道信「沈從文・張兆和『湘行書簡』」第二一回『火鍋子』第六六号、二〇〇五年二月

・小島久代「箱岩」、「五人の軍人と一人の水夫」、「昔馴染み」

(翻訳)『湘西』第七号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇五年一〇月

二〇〇六年

黄媛玲「沈從文の初期創作に見られる思想——一九二四年から一九二六年」(六)『名古屋外国語大学外国語学部紀要』、二〇〇六年二月

齊藤大紀「一九二五年、北京、文芸の畑——沈從文「北京之文芸刊物及作者」をめぐって——」『野草』第七七号、二〇〇六年二

月

福家道信「沈從文の故郷への旅——『湘行書簡』から『湘行散記』へ——」『近畿大学語学教育学部紀要』第六卷第一号、二〇〇六年七月

齊藤大紀「北京の文芸刊行物および作者」(訳注)(下)『湘西』刊行会、白帝社、第八号、二〇〇六年一〇月

・慶華菱「沈從文作品中的方言民俗考釈」『湘西』第八号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇六年一〇月

・安国鵬「中营街往事」『湘西』第八号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇六年一〇月

☆城谷武男著『沈從文「蕭蕭」「阿金」「牛」の版本研究』サッ

ポロ堂書店、二〇〇六年二月三二日

・福家道信「沈從文・張兆和『湘行書簡』」第二二回『火鍋子』第六七号、二〇〇六年五月

・福家道信「沈從文・張兆和『湘行書簡』」第三三回(最終回)『火鍋子』第六八号、二〇〇六年一〇月

・小島久代「虎雛との再会記」、「鼻自慢のある友人」、「藤回生堂の今昔」『湘西』第八号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇六年一〇月

二〇〇七年

中野知洋「沈從文『習作選集代序』について」『学大國文』第五〇号、二〇〇七年

黄媛玲「沈從文の日記体小説『峯君日記』における『恋愛』」

『吉田富夫先生退休記念中国学論集』二〇〇七年

三月

福家道信「沈從文の故郷への旅—沈從文『鴨窠園の夜』と原拠資料の比較—」『近畿大学語学教育紀要』第七卷第一号、二〇〇七年七月

津守陽「沈從文の女性形象にひそむ『郷土』—白い女神か、黒い田舎娘か—」『東方学』第一一三輯、二〇〇七年

津守陽「『郷土』を溶かす内面の空白—沈從文の女性像から—」

『現代中国』第八一号、二〇〇七年九月

齊藤大紀「青島訪問記」『湘西』第九号、刊行会、白帝社、二〇〇七年一〇月

慶華菱「找尋記憶、巴金與沈從文相識時間考」『湘西』第九号、

『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇七年一〇月

安国鵬「好一片水、好一座小小山城」『湘西』第九号、刊行会、白帝社、二〇〇七年一〇月

安国鵬「再創輝煌の郷下人—沈從文下半生の史學成就」『湘西』

第九号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇七年一〇月

劉庭桂「沈從文的鳳凰城、永不寂寥—《沈從文的鳳凰城》読後」『湘西』第九号、刊行会、白帝社、二〇〇七年一〇月

☆城谷武男著『湘西—一九九六年秋冬写真と文—』サッポロ堂書店、二〇〇七年二月三十一日

☆小島久代著「沈從文小説翻訳選」(「貴生」、「伝奇不奇」翻訳、解説)『中国文庫』、二〇〇七年九月

・今泉秀人「李愷玲著(今泉秀人訳)『淡泊にして厚情—「蕭蕭」から沈從文の表現形式を論ず—』」『湘西』第九号、刊行会、白帝社、二〇〇七年一〇月

・金介甫著・安剛強訳「沈從文作品導読」『湘西』第九号、刊行会、白帝社、二〇〇七年一〇月

西』刊行会、白帝社、二〇〇七年一〇月

二〇〇八年

齊藤大紀「網やぶれて山河あり—沈從文『長河』を読む—」

『海域世界ネットワークと重層性』、二〇〇八年五月  
齊藤大紀「于廛廬の詩—三、一八事件、『晨报・詩鵲』をめぐる—」『野草』八二号、二〇〇八年八月

今泉秀人「ふたりの童養媳—沈從文『蕭蕭』の成就—『野草』第八二号、二〇〇八年八月

津守陽「人物呼称にみる沈從文の『郷土』観—『辺城』を題材として—」『野草』第八二号、二〇〇八年八月

小島久代「『湘西』終刊の辞」『湘西』第一〇号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇八年一〇月

城谷武男「他界前の一年—丸尾常喜さん追悼—」『湘西』第二〇号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇八年一〇月

齊藤大紀「消費される感傷—沈從文と于廋廬—」『湘西』第二〇号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇八年一〇月

慶華菱「十年友誼不尋常—紀念『湘西』出刊十周年—」『湘西』第二〇号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇八年一〇月

安国鵬「沈從文と美術音楽—」『湘西』第一〇号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇八年一〇月

安国鵬「舍棄文学研究文物—沈從文的考古貢獻—」『湘西』第一〇号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇八年一〇月

井上裕子「水に流れた結婚物語としての『辺城』」『湘西』第一〇号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇八年一〇月

角田篤信「『阿黑小史』の校勘」『湘西』第一〇号、『湘西』刊行会、白帝社、二〇〇八年一〇月

小島久代「沈從文『辺城』—（中国・朝鮮文学の魅力）『全国商工新聞』、二〇〇八年二月八日

☆城谷武男著「沈從文研究 わたしのばあい」サッポロ堂書店、二〇〇八年一月三日

☆小島久代訳「湘行散記」（翻訳、解説）『好文書店』二〇〇八年一月

・今泉秀人「頭から説きはじめる—魯迅・沈從文と首切り—」（王徳威著今泉秀人訳）『未名』第二六号、二〇〇八年三月

二〇〇九年

今泉秀人「齊藤大紀「于廋廬の詩—三・一八事件、晨報・詩鵲—」をめぐって—」（書評）『野草』第八三号、二〇〇九年二月

福家道信「今泉秀人「ふたりの童養媳—沈從文『蕭蕭』の成就—」（書評）『野草』第八三号、二〇〇九年二月

大東和重「津守陽「人物呼称にみる沈從文の『郷土』観—『辺城』を題材として—」（書評）『野草』第八三号、二〇〇九年二月

小島久代「城谷武男著・角田篤信編『沈從文研究—私の場合—』を読む」（書評）『野草』第八四号、二〇〇九年八月

福家道信「『文革』中の沈従文の小説——『来的是誰?』」『近畿大学文学部論集「文学・芸術・文化」』第二一巻第一号  
二〇〇九年九月

津守陽「郷土」をめぐる時間形式——沈従文と『不変の静かな郷村』像——『日本中国学会報』第六一号、二〇〇九年一〇月

#### その他 Web

浅井正義(資料補充・青野繁治)「沈従文」『オンライン中国現代作家辞典』

<http://bluesky.osakagaidai.ac.jp/~aono/zjcidian/zuoja11/s/shencongwen/shencong.htm>

中里見敬・二〇〇二年度後期「アジア言語文化論Ⅱ／Ⅳ」受講生「三人の男と一人の女」

<http://www.rc.kyushu-u.ac.jp/~naka/translation/06.htm>

武継平「中国現代文学名作議論の広場——沈従文の『夫』について」

<http://mail.rc.kyushu-u.ac.jp/~yanzipin/giron%110hiroba.htm>

#### 参考文献

小島久代「日本における沈従文紹介・研究論文」『沈従文——

人と作品』汲古書院、一九九七年六月

城谷武男・今泉秀人「日本における沈従文紹介・研究」『沈従文「雨後」を読む——中国現代文学への誘い』同学社、二〇〇一年四月

本目録は齊藤大紀氏が二〇〇四年の「中国現代文学者の集い」における講演資料として配布されたものに、小島が二〇〇四年後半、二〇〇九年の分を加えて作成した。